

# 福津市備蓄計画

平成28年度

福岡県福津市

## 目 次

1	はじめに	3
2	計画策定に係る基本的考え方	3
	(1) 備蓄物資支給対象者数	4
	(2) 備蓄場所	4
	(3) 備蓄品目	5
	(4) 備蓄数	6
3	整備（購入）計画	10
	(1) 食料、飲料水	10
	(2) 日用品	10
	(3) 備品等	10
4	家庭内備蓄について	11
	(1) 食料	11
	(2) 飲料水	11
	(3) 日用品、備品等	11
5	企業内備蓄について	11
	(1) 食料、飲料水	12
	(2) 日用品、備品等	12
6	地域での備蓄について	12
7	流通備蓄について	12
8	備蓄物資の保管場所	14

## 1 はじめに

平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、東北地方太平洋側を中心に人的被害や建物被害等の甚大な被害をもたらしたほか、電気、ガス、水道等のライフラインが寸断されました。また、平成28年4月の熊本地震でも、広範囲に大きな被害をもたらし、復旧までに多くの時間と労力を要しています。

このような教訓を基に、国や地方自治体、地域、企業等では、防災、減災のための様々な対策が進められています。

もちろん福津市も例外ではなく、防災、減災のための各種対策を進めています。その一環として、平成26年度に策定された福岡県備蓄計画の結果を基に、「福津市備蓄計画」を策定することとしました。本計画においては、災害対策基本法に規定されている市民による日頃からの家庭内備蓄、企業等の事業所内備蓄、自主防災組織等の地域での備蓄といった自助、共助を基本としつつ、公助である市としても一定の備蓄を行うこととします。その他、企業等との協定による流通備蓄※注、国や県、他自治体等からの救援物資による補完も考慮し、市民、企業、行政等が一体となって災害時に備えた取り組みを行っていくことを目指します。

なお、本計画は、状況の変化や新たな課題などが生じた場合には、必要に応じて検討を加え、修正するものとします。

※注 流通備蓄：災害時に備え、市が企業等とあらかじめ協定を締結し、災害時に必要な物資等を調達すること。

## 2 計画策定に係る基本的考え方

災害時においては、ライフラインの寸断や流通機能の低下による物資等の不足が懸念されることから、市民自らが日頃から必要な物資などを備蓄することが重要です。

しかし、市内において大規模かつ広範囲の災害が発生した場合、多数の避難者が生じることが予想されることから、市としては、自助、共助を基本としつつも、対策の一つとして食料、飲料水、日用品、備品等を計画的に備蓄していきます。

また、本計画は発災直後を想定して計画します。ストーマ用装具や気管孔エプロンなど医療装具が必要となる福祉避難所用備蓄品については、医師会等と相談しながら、その運営方法と併せて別途計画を進めることとします。

## (1) 備蓄物資支給対象者数

福岡県の地震時の避難者想定では960人となっていますが、この調査は平成24年3月のものであるため、時点修正を行うと1,050人となります。しかし、この避難者数は家屋が全壊した世帯を想定したもので、熊本地震では二度の震度7を記録しました。今後は、半壊家屋でも二度目は全壊になる可能性があるため、全壊世帯だけでない避難者が増加することが大いに予想されます。よって、半壊世帯も含めた想定を市独自で行いました。

この結果、最大避難者である2,400人を対象とした備蓄計画を作成します。

### 災害別避難者数の想定

災害の種類	避難者数	備考
地震	全壊 1,050人	福岡県地震に関する防災アセスメント調査
	全壊・半壊 2,400人	同上
津波	家屋半壊2棟	同上
風水害	2,393人	福津市避難計画（風水害）

## (2) 備蓄場所

備蓄場所は備蓄品の保存期間に合わせて集中管理と分散管理とに仕分けします。

集中管理場所は一部の例外を除き、市役所備蓄倉庫、津屋崎備蓄倉庫とし、分散管理の場所は原則として指定緊急避難場所と兼ねている指定避難場所とします。

ただし、指定緊急避難場所は各郷づくりに1箇所ありますが、発電機等、その使用方法を郷づくり協議会にも熟知してもらう必要性により、郷づくり協議会の意見も踏まえたうえ、備蓄場所を決定します。

**食料・飲料水（保存期間5～12年）＝市役所集中管理**

**日用品（保存期間5年）＝市役所集中管理**

災害被害状況は一定でなく地域差が起きることが予想されます。よって、食料・飲料水や日用品は市の集中管理とし被災の程度により各避難所へ届けます。

また、食料・飲料水・日用品は保存期間が5年～12年であるため、保存期間が残り1年未満となったアルファ化米と飲料水は、防災意識の高揚を目指し、防災訓練、防災教育、市開催のイベント等での活用、希望する自主防災組織への配布等の有効活用を図ります。

#### **粉ミルク（保存期間1.5年）＝保育所集中管理**

粉ミルクは保存期間が極めて短いため、市保育所において管理し、保育所の通常の業務内で期限の近いものから使用をしていきます。

#### **備品（保存期間なし）＝指定緊急避難場所分散管理**

発電機や投光器、車いす等の備品は避難所において使用するため市内9ヶ所の指定避難場所での備蓄とします。また、市役所にも同一機の予備を置き、故障等へ対応します。

### **（3）備蓄品目**

備蓄品目については、家屋の浸水や全半壊等によって避難する市民にとって、発災から流通備蓄や救援物資等が届くまでの間、緊急かつ必要不可欠な食料、飲料水、日用品等の避難生活に必要な物資とします。

#### **ア. 食料、飲料水**

##### **①アルファ化米**

3歳から69歳までの方の1日分（3食）として、栄養価が高く長期保存が可能なアルファ化米のうち、五目御飯等の副食が不要なものを備蓄します。また、食物アレルギー等の方に配慮し、アレルギー特定原材料等27品目を含まないアルファ化米も備蓄することとします。

##### **②アルファ化米（白粥）**

幼児、高齢者、食物アレルギー等の方の1日分（3食）として、アルファ化米の白粥を備蓄します。

##### **③粉ミルク**

乳児（0歳）用として、粉ミルクを備蓄します。

##### **④飲料水**

想定される避難者全員に対して、1日分（30）を目安として備蓄します。また、乳児用ミルクを作るための水と哺乳瓶洗浄用の水も備蓄します。

#### **イ. 日用品**

日用品については、避難生活において必要不可欠と考えられるものを備蓄します。

①毛布、②紙おむつ（大人用）、③紙おむつ（乳幼児用）、④哺乳瓶、⑤ウェットティッシュペーパー、⑥生理用品、⑦トイレットペーパー、⑧簡易携帯トイレ（便袋）、⑨タオル、⑩口腔衛生用品（歯磨きシート）、⑪食器セット（プラスチック

の皿、椀、先割れスプーン)、⑫ラップ  
 ウ. 備品等

備品等については、特に避難所運営において必要不可欠と考えられるものを備蓄します。

各避難所に備蓄倉庫1基を配備し、そのなかに下記の備品を備蓄します。

- ①発電機、②投光器、③コードリール、④懐中電灯、⑤簡易ラジオ、⑥ブルーシート、⑦ロープ、⑧車いす、⑨折りたたみ式担架、⑩メガホン、⑪間仕切り（パーティション）、⑫簡易式トイレ（本体及びテント）、⑬折りたたみ式リヤカー、⑭特定小電力トランシーバー、⑮燃料携行缶、⑯発電機用エンジンオイル、⑰電池式ランタン、⑱電気製品用乾電池、⑲ガスコンロ、⑳ガスボンベ

#### (4) 備蓄数

備蓄物資支給対象者数2,400人に配布する食料、飲料水、日用品について、年代と性別を考慮して、次のとおり目標数（割合）を設定します。

区 分	割合	備 考
3歳～69歳	77.7%	アルファ化米（五目御飯他）
1歳～2歳、70歳以上	21.32%	アルファ化米（白粥）
0歳	0.98%	粉ミルク
0歳～3歳	4.19%	紙おむつ（乳幼児用）
65歳以上の介護認定者のうち要介護3以上	1.47%	紙おむつ（大人用）
10歳～55歳の女性	25.67%	生理用品

※割合は、平成28年4月1日現在の住民基本台帳人口に基づき算定。

ア. 食料、飲料水

①アルファ化米（五目御飯等）

【対象】3歳から69歳まで

【目標】1人1日当たり3食として1日分

アルファ化米は主食となるため予備も勘案し避難者全員分を備蓄。

$$2,400人 \times 100\% \times 3食 \doteq 7,200食$$

②アルファ化米（白粥）

【対象】1歳、2歳、70歳以上

【目標】1人1日当たり3食として1日分

$$2,400人 \times 21.32\% \times 3食 \doteq 1,540食$$

③粉ミルク

【対象】 乳児（0歳）

【目標】 1回当たり27g（200ml分）として1日5回分の135g（1,000ml分）

$$2,400人 \times 0.98\% \times 135g / 日 \div 3,180g$$

④飲料水

【対象】 避難者全員

【目標】 1人1日当たり3ℓ（500ml換算で6本）＋ミルク用＋哺乳瓶洗浄用。

$$(2,400人 \times 6本) + (2,400人 \times 0.98\% \times 2本) + (2,400人 \times 0.98\% \times 1本 \div 500ml = 14,500本$$

※500ml=1本として換算。

イ. 日用品

①毛布

【対象】 避難者全員

【目標】 1人当たり1枚を避難者全員

$$2,400枚 / 人 \div 2,400枚$$

②紙おむつ（大人用）

【対象】 65以上の介護認定者のうち要介護3以上

【目標】 1人1日当たり6枚として

$$2,400人 \times 1.47\% \times 6枚 / 日 \div 220枚$$

③紙おむつ（乳幼児用）

【対象】 0歳から3歳まで

【目標】 1人1日当たり8枚として

$$2,400人 \times 4.19\% \times 8枚 / 日 \div 810枚$$

④哺乳瓶

【対象】 0歳

【目標】 1人1日当たり1本として

$$2,400人 \times 0.98\% \times 1本 / 日 \div 25本$$

⑤ウェットティッシュペーパー

【対象】 避難者全員

【目標】 ポケットウェットティッシュペーパー1人1袋として

$$2,400人 \times 1袋 \div 2,400袋$$

⑥生理用品

【対象】10歳から55歳までの女性

【目標】4週間に1回として換算し1人1日当たり8枚として1日分

$$2,400人 \times 25.67\% \div 4週 \times 8枚/日 \times 1日 \doteq 1,233枚$$

⑦トイレットペーパー

【対象】紙おむつ支給対象者を除く全員 (100% - 4.19% - 1.47% = 94.34%)

【目標】1人1回80cm×5回=1日当たり4mとして1日分

$$2,400人 \times 94.34\% \times 4m/日 \times 1日 \div 60m/ロール \doteq 151ロール$$

※60m=1ロールとして換算。

⑧簡易携帯トイレ (便袋)

【対象】紙おむつ支給対象者を除く全員 (100% - 4.19% - 1.47% = 94.34%)

【目標】1人1日当たり5袋 (1袋=1回分) として1日分

$$2,400人 \times 94.34\% \times 5袋 \times 1日 \doteq 11,320袋$$

⑨タオル

【対象】避難者全員

【目標】1人当たり1枚を避難者全員

$$2,400枚/人 \doteq 2,400枚$$

⑩口腔衛生用品 (歯磨きシート)

【対象】避難者全員

【目標】1人当たり1回分 (1枚)

$$2,400枚/人 \doteq 2,400枚$$

⑪食器セット (プラスチックの皿、椀、先割れスプーン)

【対象】1歳以上の避難者全員

【目標】1人当たり皿、椀、先割れスプーン各1個のセット

$$2,400セット \times 99.02\% \doteq 2,380セット$$

⑫ラップ

【対象】1歳以上の避難者全員

【目標】1人当たり1m/日として1日分

$$2,400人 \times 1m \times 99.02\% \doteq 2,380m$$

1本 (巻) 100mとして、24本 (巻)

ウ. 備品等

①発電機

【目標】 自家用発電設備等を有していない指定緊急避難場所1か所当たり2台

②投光器

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり2台

③コードリール (20m)

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり2個

④懐中電灯

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり2個

⑤簡易ラジオ

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり2台

⑥ブルーシート (10m×10m)

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり4枚

⑦ロープ (20m)

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり1巻

⑧車いす

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり1台

⑨折りたたみ式担架

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり1台

⑩メガホン

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり2台

⑪間仕切り (パーテーション)

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり4セット

⑫簡易式トイレ (本体及びテント)

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり6台

⑬折りたたみ式リヤカー

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり1台

⑭特定小電力トランシーバー

【目標】 指定緊急避難場所1か所当たり2台

⑮燃料携行缶 (20ℓ)

【目標】 発電機1台当たり1缶

⑯発電機用エンジンオイル (10年保存可能分)

【目標】 発電機1台当たり1缶

⑰電池式ランタン

【目標】指定緊急避難場所1か所当たり5台

⑱電気製品用乾電池（使用推奨期限10年のアルカリ乾電池等）

【目標】指定緊急避難場所1か所で備蓄している電気製品1回分の電池

⑲ガスコンロ

【目標】指定緊急避難場所1か所当たり2台

⑳ガスボンベ（7年保存可能分）

【目標】ガスコンロ1台当たり2缶

### 3 整備（購入）計画

備蓄品の整備（購入）について、次のとおり計画します。

整備を始める初年度に食料・飲料水、日用品、備品の必要全量を購入します。2年目からは食料・飲料水は必要全量から保存期間で除した量を毎年均等に整備します。日用品について、品質保証期限のないものについては、基本、5年を保存期間とし整備しますが、保存状態を確認しながら、品目により保存期間は設定していきます。

#### （1）食料、飲料水

アルファ化米と飲料水は保存期間5年以上のもの、粉ミルクは保存期間18か月のものを購入します。具体的には、現在の備蓄量や保存期間から総合的に勘案し、計画的に購入していきます。

また、粉ミルクについては、市立保育所との連携で、無駄のない活用を図っていきます。

#### （2）日用品

##### ア．毛布

保存、衛生面を考慮して、真空パック入りのものを購入します。

イ．紙おむつ、哺乳瓶、ウェットティッシュペーパー、生理用品、トイレットペーパー、簡易携帯トイレ（便袋）、タオル、口腔衛生用品（歯磨きシート）、食器セット（プラスチックの皿、椀、先割れスプーン）、ラップ

保存状態や衛生面を考慮しながら、計画的に購入、更新します。

備蓄物資として適さなくなった場合は、可能な限り再利用等を検討します。

#### （3）備品等

保存状況や耐用年数等を考慮しながら、計画的に購入、更新します。

企業等との協定締結による流通備蓄も、充実させていきます。

## 4 家庭内備蓄について

様々な媒体や機会を通じて家庭や地域、事業所等における備蓄の重要性について継続的に広報し、家庭内等の備蓄を促進、充実させていきます。

<家庭で備蓄することが望ましい物>

### (1) 食料

- ・ 3日分以上
- ・ 日常生活に使い、乾物類のように長期間の保存に耐えられるもの
- ・ 持ち運びに便利で、調理に手間がかからないもの
- ・ 必要最小限のエネルギーや栄養を確保できるもの

(例示)

主食	アルファ化米、レトルト食品、米、冷凍食品、即席めん、パスタ、ビスケット、クラッカー、シリアル等
主菜 副菜	缶詰、レトルト食品、乾燥食品（ひじき、わかめ、昆布、高野豆腐、干し椎茸、かんぴょう、切り干し大根等）、梅干、漬物、らっきょう 等
汁物	インスタントスープ類
調味料	砂糖、塩、みそ、しょうゆ、酢、コンソメ等
嗜好品	あめ、チョコレート、果物缶詰、スナック菓子、ふりかけ等
飲料	ミネラルウォーター、お茶類、スポーツ飲料、野菜ジュース、スキムミルク等

### (2) 飲料水

- ・ 1人当たり1日3ℓ以上
- ・ 保存期間の長いもの

### (3) 日用品、備品等

携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池、軍手、タオル、ウェットティッシュペーパー、救急セット、使い捨てカイロ、カセットコンロ等

## 5 企業内備蓄について

企業等においても、管理する施設の耐震性や耐火性の強化、収容物等の転落防止等に取り組み、従業員や来客等の安全確保に努める必要があります。また、帰宅困難者対策のための備蓄が大切です。

＜企業等で備蓄することが望ましいもの＞

(1) 食料、飲料水

3日分以上

(2) 日用品、備品等

毛布、医薬品、懐中電灯、ラジオ、乾電池、ヘルメット、軍手等

## 6 地域での備蓄について

地域内の家庭や企業（事業所）、市等と具体的な協議を行った上で有機的な連携を図り、それぞれの備蓄物資が最も効果的、効率的に機能するような備蓄を進めていくことが大切です。

## 7 流通備蓄について

市は、企業等とあらかじめ協定を締結し、災害が起こった場合、必要な物資等を調達する流通備蓄を進めています。現在は、次のとおり流通備蓄に関する協定を締結していますが、重層化してより実効性のある流通備蓄とするため、今後も協定の締結を進めていきます。なお、協定を締結した企業等の中には、重機による復旧作業提供や放送による情報提供等、流通備蓄以外のサービスも含まれています。

【流通備蓄等に関する協定一覧】

団体・個人企業名	主な業種
福津市内等郵便局	郵便配達業務
宗像建設協会	建設業者の団体運営
福間土木協同組合	土木建設業
NPO法人コメリ災害対策センター	防災関連物資、災害復旧物資
平元産業株式会社宗像支店	土木工事業
(株)かねやす福間店	土嚢袋等建設資材
株式会社丸宗土木	土木建設業
有限会社アクロス	土木建設業
株式会社福津建設	土木建設業
株式会社地建開発	土木工事業
株式会社松原組	土木建設業
コカ・コーラウエスト株式会社	清涼飲料水販売
宗像建築組合	建築業者の団体運営
有限会社柴田工業	土木工事業
小野産業株式会社	土木工事業

日本道路株式会社福岡営業所	土木工事業
国土交通省九州地方整備局	官公庁
イオンモール株式会社	食料・生活物資
イオン九州株式会社	食料・生活物資
宗像医師会	医療救護活動
ジェイコム九州	コミュニティチャンネル放送
福岡県公共嘱託土地家屋調査士協会	土地家屋調査
福岡県立光陵高等学校	県有施設
福岡県立水産高等学校	県有施設
社会福祉法人南十字福祉会	福祉避難所
コカ・コーラウエスト株式会社	清涼飲料水販売
福津市内郵便局(日本郵便)	郵便配達業務
株式会社 創優	土木建設業
株式会社 ゼンリン	地図製作、販売業
宗像農業協同組合	農業協同組合
キューヘングリーンサービス株式会社	建設業(除去作業等)、重機の提供
宗像地区事務組合	水道事業

(平成 28年8月現在)

## 8 備蓄物資の保管場所

### 備蓄品と備蓄場所

※表内に倉庫が記されている場所に備蓄する。

指定緊急避難場所	施設名	全避難所の収容人員(人)	郷づくり協議会	備蓄品管理場所
指定	あんずの里農林業体験実習館	170	勝浦	
	勝浦小学校	90	勝浦	倉庫 備品
指定	上西郷小学校	160	上西郷	倉庫 備品
指定	神興小学校	140	神興	倉庫 備品
	県立光陵高等学校	200	神興	
指定	福間東中学校	200	神興東	
	神興東小学校	200	神興東	倉庫 備品
指定	福津市文化会館	850	津屋崎	倉庫 備品
	津屋崎小学校	180	津屋崎	
	県立水産高等学校	180	津屋崎	
	福社会館「潮湯の里夕陽館」	300	津屋崎	
	津屋崎中学校	330	津屋崎	
	津屋崎体育センター	150	津屋崎	
指定	福間小学校	190	福間	倉庫 備品
	福間体育センター	200	福間	
指定	福間南小学校	170	福間南	倉庫 備品
	福間中学校	260	福間南	
指定	宮司コミュニティセンター	210	宮司	倉庫 備品
指定	健康福祉総合センター(ふくとびあ)	1,360	市管理	倉庫 備品 日用品
	福津市中央公民館	730	市管理	
	福津市立図書館	350	市管理	
	福津市役所		市管理	倉庫 食料 日用品 備品
	旧津屋崎庁舎		市管理	倉庫 食料 日用品 備品
合計	指定緊急避難場所 9箇所 同上以外の指定避難所12箇所	6,620		

#### ※語句説明

語句	内 容	管理の方法等
食料	アルファ化米・水など	集中管理
日用品	おむつ・生理用品など	集中管理
備品	発電機・救助用具など	分散監理
倉庫	備蓄倉庫	上記の場所に設置

## 福津市備蓄計画

平成28年 8月

発行 福津市

編集 福津市 総務部 防災安全課

〒811-3293 福岡県福津市中央1丁目1-1  
福津市役所本館2階

TEL 0940-43-8107

FAX 0940-43-3168

E-mail anzen@city.fukutsu.lg.jp